

第5章

子どもへのかかわり

第1節 子どもへのかかわり

第2節 学校や教育に関する意識

(荒川 英央)

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章

第7章

資料編

第1節

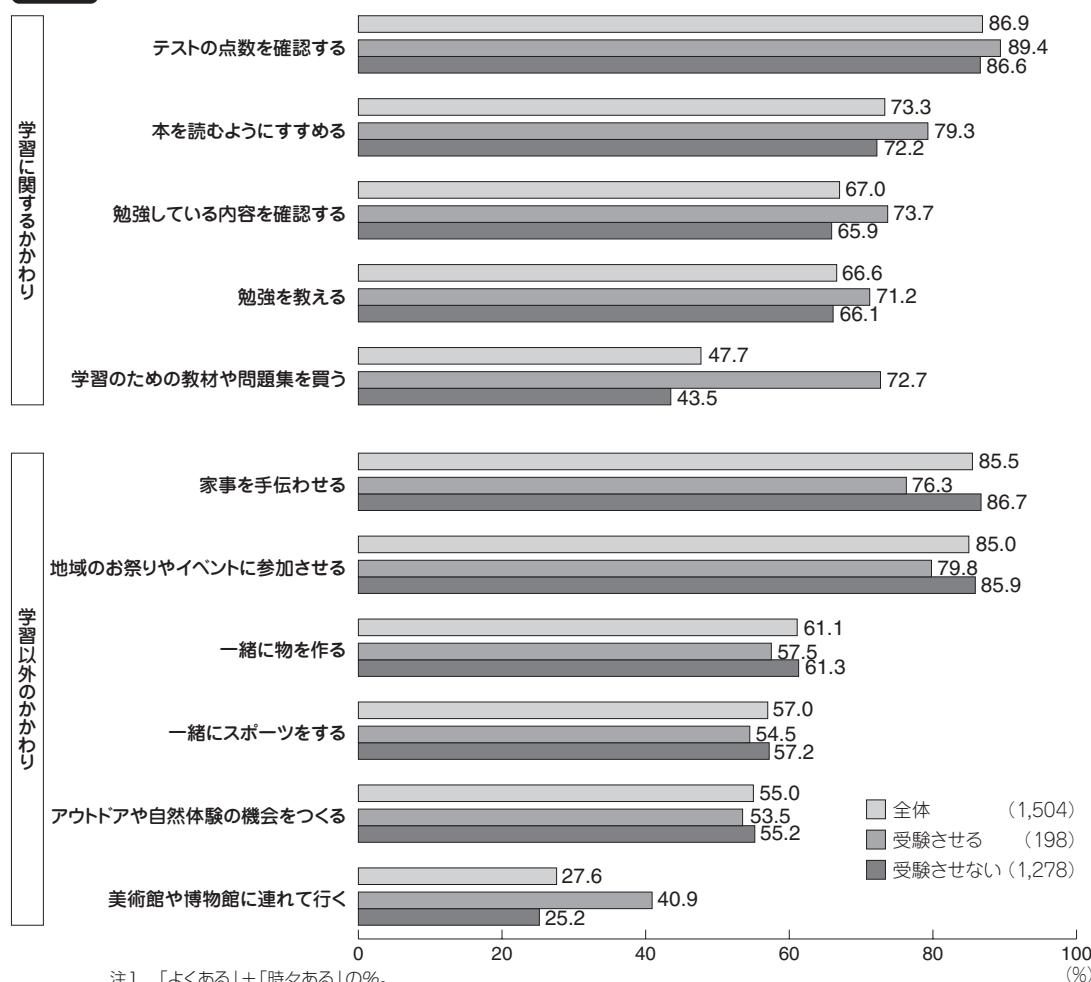
子どもへのかかわり

保護者は子どもに非常に熱心にかかわっている。受験させる保護者はとくに学習面に集中して熱心に関与している様子がみられるが、過度な口出しにつながっている場合も考えられる。また、受験予定や居住地域によって教育の情報源として重要視するものが異なり、受験予定者や都市部の保護者ほど学校以外のものに求める場合が多くなる。

本章では、保護者に対して子どもの教育についてたずねている質問項目を取り上げる。本節では、保護者の子どもに対するかかわりを中心にみていきたい。

Q あなたやあなたの配偶者(夫、または妻)は、ふだんお子様に対して、次のようなことをしますか。

保護者 図5-1-1 子どもに対してすること (全体・受験予定別)



注1 「よくある」+「時々ある」の%。

注2 15項目のうち、11項目を図示。

注3 ()内はサンプル数。

保護者 表5-1-1 子どもに対してすること（全体・人口規模別）

（%）

	全体 (1,504)	人口規模別			
		特別区・ 指定都市 (355)	15万人以上 (470)	5~15万人 (375)	5万人未満 (251)
学習に関するかかわり					
テストの点数を確認する	86.9	88.7	84.3	<	89.9
本を読むようにすすめる	73.3	76.1	72.1		74.9
勉強している内容を確認する	67.0	69.8	66.2		63.8
勉強を教える	66.6	70.1	65.7	>	61.3
学習のための教材や問題集を買う	47.7	55.2	52.5	>>	39.8
学習以外のかかわり					
家事を手伝わせる	85.5	83.3	85.1		85.6
地域のお祭りやイベントに参加させる	85.0	81.9	85.3	<	89.6
一緒に物を作る	61.1	58.6	60.8		61.4
一緒にスポーツをする	57.0	53.5	56.6		60.1
アウトドアや自然体験の機会をつくる	55.0	54.4	52.8	<	60.5
美術館や博物館に連れて行く	27.6	33.2	>	27.2	25.3

注1 「よくある」+「時々ある」の%。

注2 <>は10ポイント以上、<>は5ポイント以上差があるもの。

注3 15項目のうち、11項目を図示。

注4 ()内はサンプル数。

1 子どもに対してすること

図5-1-1、表5-1-1は、保護者が子どもに対してすることをたずねた15項目のうち11項目について、それぞれ全体値と受験予定別・人口規模別の分析結果を示したものである。

まず全体値をみてみると、「学習に関するかかわり」では「テストの点数を確認する」(86.9%)、「本を読むようにすすめる」(73.3%)の2項目で、7割以上の保護者が「ある」(「よくある」+「時々ある」の%、以下同)と回答している。「学習以外のかかわり」では、「家事を手伝わせる」(85.5%)、「地域のお祭りやイベントに参加させる」(85.0%)の2項目が8割以上に達しており、多くの保護者が子どもにさまざまな体験をさせていることがわかる。「一緒に物を作る」(61.1%)、「一緒にスポーツをする」(57.0%)、「アウトドアや自然体験の機会をつくる」(55.0%)は6割程度、「美術館や博物館に連れて行く」(27.6%)は3割程度である。

受験予定別(図5-1-1)にみると、まず「学習に関するかかわり」では、すべての項目で受験させる保護者が受験させない保護者を上回っている。とくに差が大きいのは「学習のための教材や問題集を買う」で、受験させない保護者が43.5%なのに対して、受験させる保護者では72.7%と、30ポイント近い差が開いている。

「学習以外のかかわり」では、受験させない保護者でより多いのが「家事を手伝わせる」(「受験させない」86.7%>「受験させる」76.3%、以下同)、「地域のお祭りやイベントに参加させる」(85.9%>79.8%)、受験させる保護者で多いのが「美術館や博物館に連れて行く」(25.2%<40.9%)となっている。

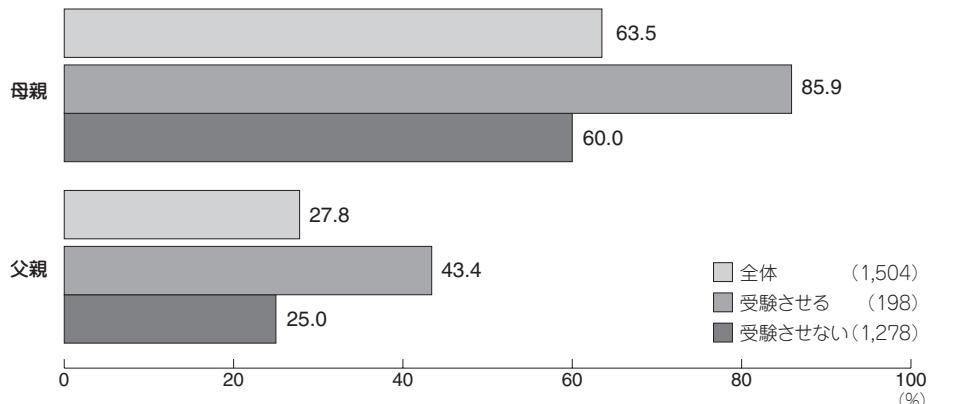
つづいて人口規模別(表5-1-1)にみると、「学習に関するかかわり」のうち「テストの点数を確認する」以外の4項目と、「美術館や博物館に連れて行く」については、「特別区・指定都市」がもっとも多くなっている。とくに「学習のための教材や問題集を買う」(「特別区・指定都市」55.2%>「5万人未満」37.9%、以下同)は大きく差が開いており、中学受験率に対応していると推察される。逆に、「地域のお祭りやイベントに参加させる」(81.9%<89.6%)、「一緒にスポーツをする」(53.5%<60.1%)、「アウトドアや自然体験の機会をつくる」(54.4%<60.5%)は、「5万人未満」でもっとも多い。

このように、全体的に保護者は学習面でもそれ以外でも、子どもたちにさまざまな体験をさせていく。なかでも中学受験をさせる場合、あるいは人口規模が大きい地域の保護者ほど、勉強・学習面でより熱心にかかわっている傾向がみられる。



あなたやあなたの配偶者は、お子様の教育情報の収集にどれくらい積極的ですか。

保護者 図5-1-2 教育情報収集に対する積極性（全体・受験予定別）



保護者 表5-1-2 教育情報収集に対する積極性（全体・人口規模別）

	全体 (1,504)	人口規模別			
		特別区・ 指定都市 (355)	15万人以上 (470)	5~15万人 (375)	5万人未満 (251)
母親	63.5	65.3	62.8	64.8	> 59.4
父親	27.8	27.6	26.8	28.0	29.1

注1 「とても積極的」+「まあ積極的」の%。

注2 <>は5ポイント以上差があるもの。

注3 ()内はサンプル数。

2 教育情報の収集

つづいて、子どもの教育情報収集に関するデータをみてみよう。

図5-1-2、表5-1-2は、母親や父親の教育情報収集に対する積極性をたずねたものである。全体値をみると、「積極的」（「とても積極的」+「まあ積極的」）なのは母親が多く、63.5%に達している。父親は27.8%で、母親の半数以下となっている。

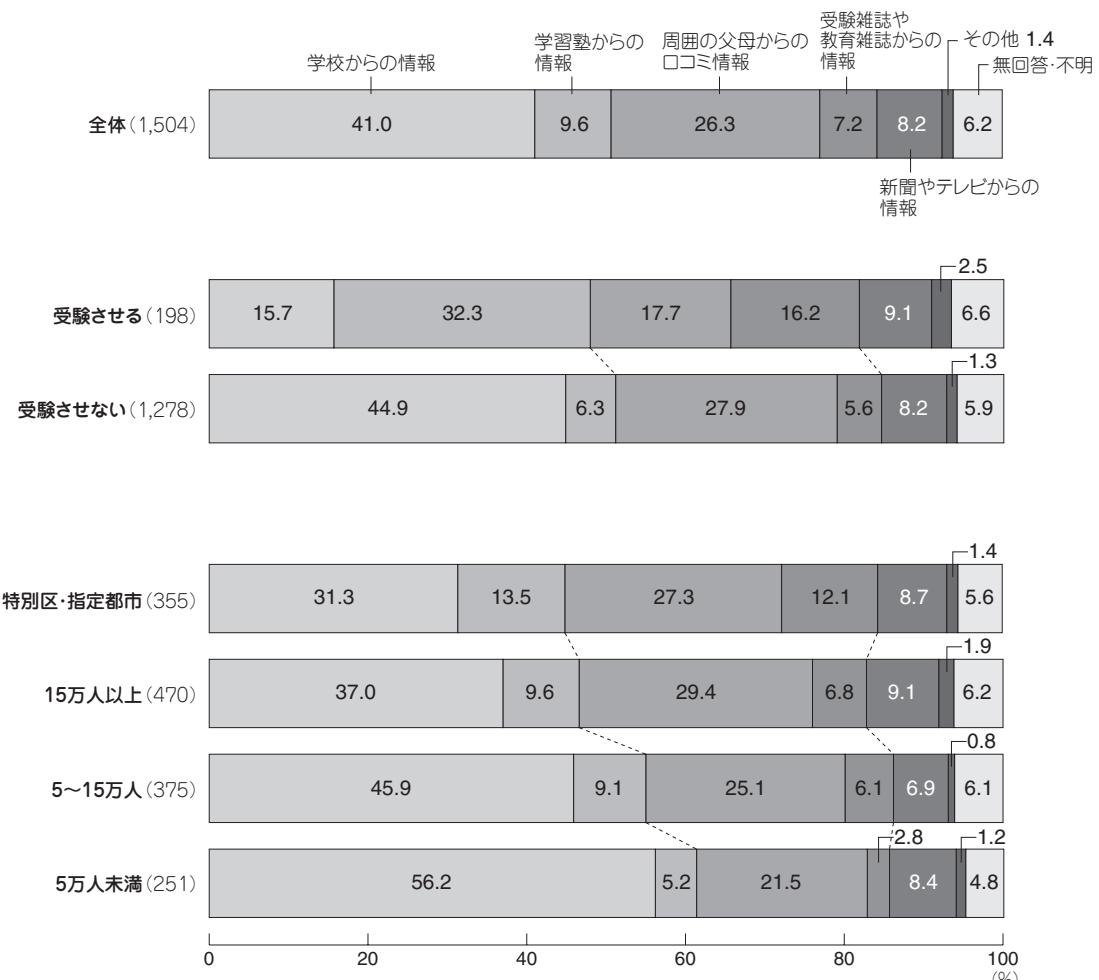
図5-1-2で受験予定別にみると、中学受験をさせる保護者ほど教育情報収集に積極的な様子

がうかがえる。とくに母親（「受験させる」85.9%>「受験させない」60.0%、以下同）の熱心さは際立っているが、父親（43.4%>25.0%）も受験させる場合は半数近くが積極的であるという点も注目に値する。一方、人口規模でみた場合には（表5-1-2）、「5万人未満」の母親の値が59.4%とやや低いが、全体的に大きな差はみられなかった。情報収集の積極性には、中学受験の有無が影響していると考えられる。

図5-1-3は、保護者がもっとも重要だと考えている教育情報源を示している。全体でもっとも

Q あなたがお子様の教育情報を知るのに、最も重要だとお考えのものは何ですか。

保護者 図5-1-3 教育情報源（全体・受験予定別・人口規模別）



注 ()内はサンプル数。

多いのは「学校からの情報」で41.0%、2番目に「周囲の父母からの口コミ情報」26.3%が続いている。

さらに図5-1-3では、中学受験をさせる場合、また人口規模が大きい地域ほど、教育情報を学校に求める保護者が減り、学習塾や雑誌に求める保護者が多くなっていることがわかる。「学校からの情報」は「受験させない」の44.9%や「5万人未満」の56.2%に対して、「受験させる」では15.7%、「特別区・指定都市」では31.3%と少なくなっている。また、受験させる保護者のなかでは「学習塾からの情報」(32.3%)が第1位で、受験させない

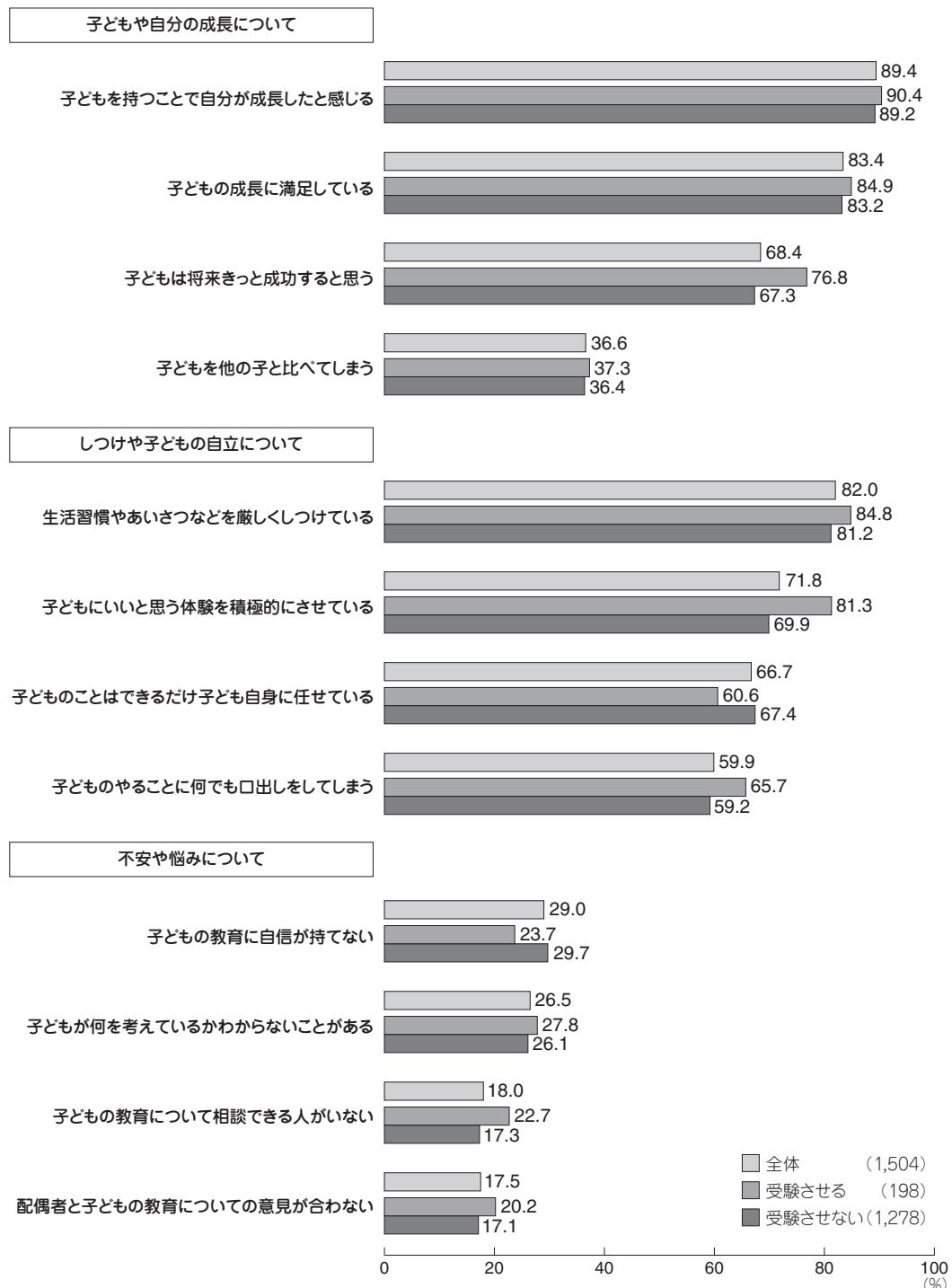
保護者の場合(6.3%)と比べても非常に多くなっている。中学受験をさせる場合には、とくに学習塾が重要な情報源となっている。

人口規模が大きいほど「周囲の父母からの口コミ情報」が多い点も興味深い(「特別区・指定都市」27.3%>「5万人未満」21.5%)。また、人口規模の小さい地域では「学校からの情報」と「周囲の父母からの口コミ情報」に集中しているのに対して、人口規模の大きい地域ではさまざまな情報源に分かれており、保護者がより多様なチャンネルから情報を得ている様子がうかがえる。



お子様の教育について、次のようなことはどれくらいあてはまりますか。

保護者 図5-1-4 子どもの教育について（全体・受験予定別）



注1 「とてもそう」+「わりとそう」の%。

注2 ()内はサンプル数。

③ 子どもの教育について

本節の最後に、保護者が子どもの教育について思うこと、子どもへの関与のしかた、不安や悩みについてたずねた項目をみていきたい。

図5-1-4をみると、全体値では「子どもを持つことで自分が成長したと感じる」(89.4%)、「とてもそう」+「わりとそう」の%、以下同)「子どもの成長に満足している」(83.4%)が非常に高く、保護者が子育てを通じて満足感を得ている様子がうかがえる。また、「生活習慣やあいさつなどを厳しくしつけている」(82.0%)、「子どもにいいと思う体験を積極的にさせている」(71.8%)の比率も高く、熱心に関与している保護者の姿が浮かび上がる。不安や悩みについての項目は、いずれも2~3割程度であった。

これらを受験予定別にみていくと、いくつかの特徴が見受けられる。第一に、受験させる保護者ほど、「子どものやることに何でも口出しをしてしまう」(「受験させる」65.7%>「受験させない」59.2%、以下同)。逆に「子どものことはできるだけ子ども自身に任せている」は受験させない保護者が多い(60.6%<67.4%)。3章2節で、受験する子どものほうが、より母親に対して「何にでもすぐ口出しをする」と思っていることが示されているが、受験させる保護者もまた、子どもに過度に関与してしまうという認識が強いようである。

第二に、受験させる保護者ほど、「子どもにいいと思う体験を積極的にさせている」(81.3%>69.9%)。受験させない保護者との間には、10ポイント以上の差が開いている。「いいと思う体験」

の内容もまた受験予定別によって異なるのかもしれないが、いずれにしろ受験させる保護者の熱心な様子が浮かび上がる。また、受験させる保護者は、学習だけでなく、生活習慣なども厳しくしつけている。学習面への関与が高いことは1項で述べたが、ここで「生活習慣やあいさつなどを厳しくしつけている」をみると、受験させない保護者との差は小さいものの、数値としては84.8%と非常に高くなっている。受験させる保護者は、学習面としつけの面、どちらにも非常に熱心にかかわっている。

第三に、受験させる保護者ほど、子どもへの教育に自信を持っている。受験させない保護者と比較すると、「子どもは将来きっと成功すると思う」(76.8%>67.3%)は多く、「子どもの教育に自信が持てない」(23.7%<29.7%)は少ない。しかし、「子どもの教育について相談できる人がいない」(22.7%>17.3%)は受験させる保護者のほうが多い点にも注意が必要である。受験させる保護者全体に占める割合としてはそこまで高くないが、受験を目指す独特の親子関係のなかで、子育てや教育の悩みを抱え込んでしまう保護者が存在する可能性も考えられる。

このように、全体的に保護者は子どもに対して熱心に関与し、子育てや教育を通じた満足感を得ている。とくに中学受験をさせる保護者は子どもにとっていい体験をさせるように心がけているが、過度な関与につながっていたり、悩みを抱え込んだりしているケースもあることが推察される。

第2節

学校や教育に関する意識

保護者は学校の教育方針や先生の指導に満足している一方、土曜授業の実施や、学校の取り組みをもっと伝えてほしいなど、学校に対して多くの要望も出している。教育に関する考え方や意見では、受験させる保護者で公立中学校への不安が高く、競争意識が強い傾向がみられる。



あなたは、小学校や先生について、どのような考え方をお持ちですか。

保護者 表5-2-1 小学校についての考え方（全体・人口規模別）

	全体 (1,504)	人口規模別				(%)
		特別区・ 指定都市 (355)	15万人以上 (470)	5~15万人 (375)	5万人未満 (251)	
先生は自分の子どものことをよく見てくれている	75.2	76.6	75.3	74.1	77.7	
土曜日も授業があったほうがよい	74.2	75.5	75.3	73.9	72.2	
学校の取り組みについて保護者にもっと伝えてほしい	72.7	74.3	70.4	72.5	74.1	
今の担任の先生の教え方に満足している	71.3	71.0	72.3	69.3	< 74.9	
学校の先生は忙しすぎる	69.4	71.3	68.1	71.5	67.7	
今の小学校の教育方針に満足している	68.3	62.8	66.1	68.2	« 79.3	
学校ではもっと補習授業をすべきである	58.3	62.3	59.8	> 54.4	55.7	
学校は子どもにしつけやマナーをもっと教えるべきだ	54.5	55.3	56.1	52.8	51.4	
学校はもっとクラブ活動など学習以外のことにも力を入れるべきだ	35.5	41.4	> 33.6	36.6	> 30.3	
子どもの能力にあわせてクラスを分けてほしい	22.5	23.9	21.7	22.7	23.9	
中学受験のためには学校行事を休ませても仕方がない	20.8	21.4	21.4	20.3	18.7	
学校はもっと中学受験のための進学指導をすべきだ	14.1	14.6	13.4	13.1	15.6	
総合的にみて、お子様が通っている小学校に満足していますか	82.0	80.0	82.4	81.6	84.9	

注1 「とてもそう思う」+「まあそう思う」の%。ただし、「総合的にみて、お子様が通っている小学校に満足していますか」については、「とても満足している」+「まあ満足している」の%。

注2 «»は10ポイント以上、くは5ポイント以上差があるもの。

注3 ()内はサンプル数。

1 小学校や先生への要望・満足度

本節では、保護者の学校や教育に関する考え方や子どもに望む将来像などについて考察する。まず、小学校や先生に対する考え方と満足度をたずねた結果をみてみよう。

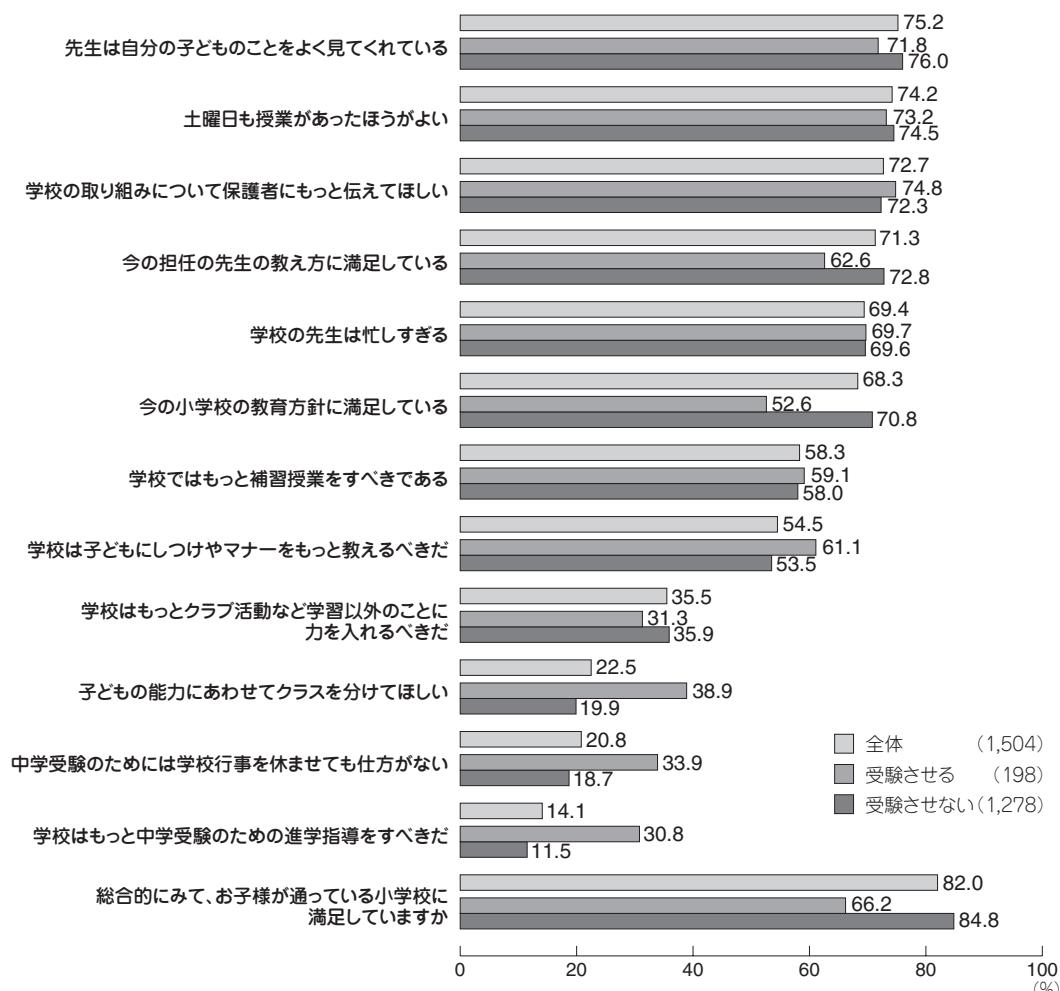
全体値と人口規模別にみたのが表5-2-1である。全体値で、「とてもそう思う」と「まあそう思う」の合計比率が7割を超えている項目は、「先生は自分の子どものことをよく見てくれている」(75.2%)、「土曜日も授業があったほうがよい」(74.2%)、「学校の取り組みについて保護者にもっと伝えてほしい」(72.7%)、「今の担任の先生の教え方に満足している」(71.3%)である。学校や先生の指導に満足している一方、土曜日の授業の実施や、学校の取り組みをもっと保護者に伝えてほしいといった要望も出ていることがわかる。そのほか、学校や先生に対する要望をみると、「学校は子どもにしつけやマナーをもっと教えるべきだ」が50%を超え、「学校はもっとクラブ活動など学習以外のことに入れるべきだ」が35.5%、「学校はもっと中学受験のための進学指導をすべきだ」が14.1%である。勉強だけではなく、しつけや勉強以外のクラブ活動などもやってほしいなど、学校や先生への要望が多種多様である。もちろん、「今の小学校の教育方針に満足している」(68.3%)し、「学校の先生

は忙しすぎる」(69.4%)こともよくわかっているようである。学校への総合満足度も高く、82.0%にのぼる。

人口規模別でみると、「5万人未満」が「特別区・指定都市」より比率が高い項目は「今の小学校の教育方針に満足している」(「5万人未満」79.3%>「特別区・指定都市」62.8%、16.5ポイント差、以下同)、「今の担任の先生の教え方に満足している」(74.9%>71.0%、3.9ポイント差)である。一方、学校や先生への要望に関して、「特別区・指定都市」が「5万人未満」より比率が高い項目は「学校はもっとクラブ活動など学習以外のことに入れるべきだ」(「特別区・指定都市」41.4%>「5万人未満」30.3%、11.1ポイント差、以下同)、「学校ではもっと補習授業をすべきである」(62.3%>55.7%、6.6ポイント差)などである。学校への総合満足度では、「5万人未満」(84.9%)が「特別区・指定都市」(80.0%)より若干比率が高い。

このように、人口規模が小さい地域ほど、学校への満足度が高く、人口規模が大きいほど、学校や先生への要望が多い傾向がみられる。

保護者 図5-2-1 小学校についての考え方（全体・受験予定別）



注1 「とてもそう思う」+「まあそう思う」の%。ただし、「総合的にみて、お子様が通っている小学校に満足していますか」については、「とても満足している」+「まあ満足している」の%。

注2 ()内はサンプル数。

次に、子どもに中学受験させる、させないことによって、小学校への考え方には違いがあるかを見てみよう（図5-2-1）。

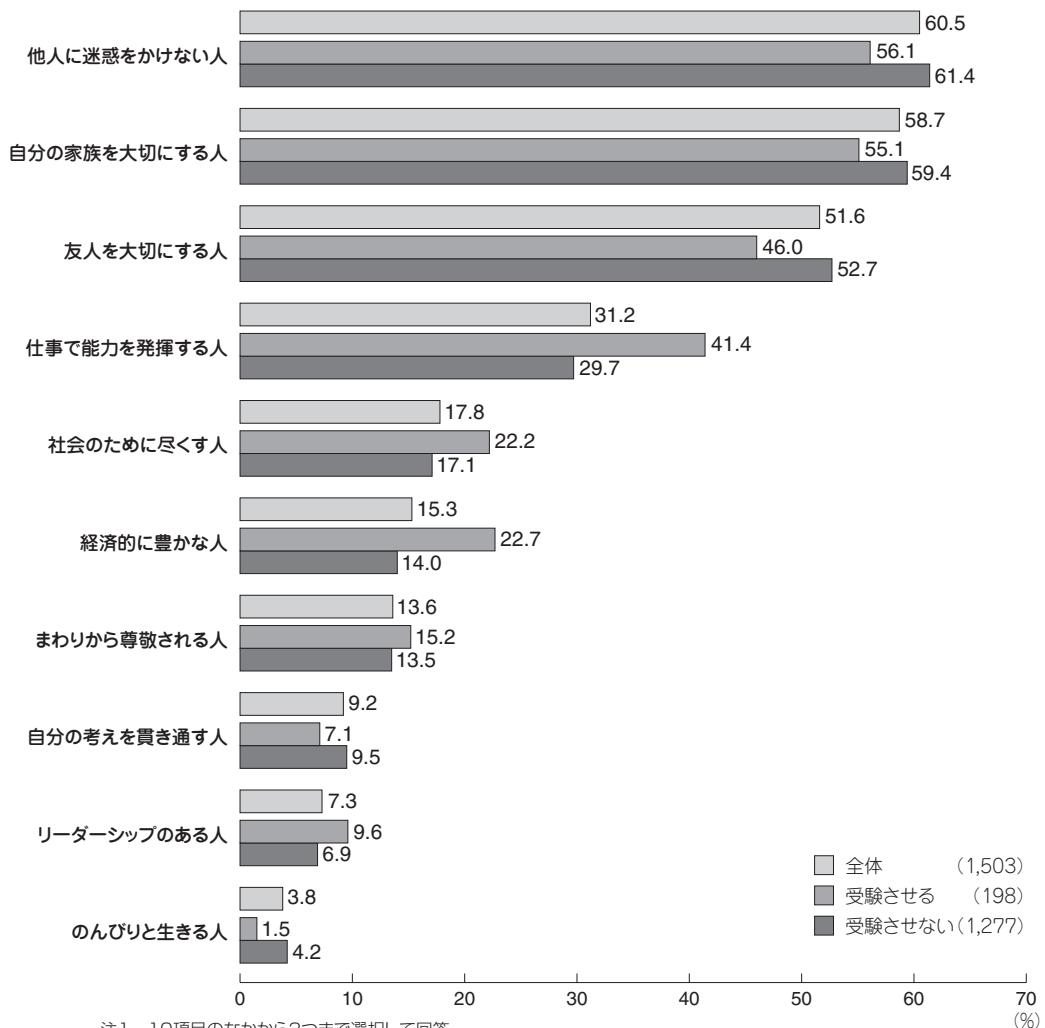
まとめると、以下の特徴がみられる。1つめは、受験させる保護者で学校への要望が多いこと。受験させる保護者も受験させない保護者も、土曜日授業の実施や、学校の取り組みをもっと伝えてほしいなど、学校に対する要望が多い。しかし、受験させる保護者からはそのほかに、「学校は子どもにしつけやマナーをもっと教えるべきだ」（「受験させる」61.1%>「受験させない」53.5%、以下同）、「子どもの能力にあわせてクラスを分け

てほしい」（38.9%>19.9%）、「中学受験のために学校行事を休ませても仕方がない」（33.9%>18.7%）、「学校はもっと中学受験のための進学指導をすべきだ」（30.8%>11.5%）の項目においても、受験させない保護者より高い回答を得ている。2つめは、受験させない保護者で学校への満足度が高いこと。受験させない保護者は受験させる保護者より、担任の教え方、学校の教育方針に満足しており、先生が自分の子どもをよく見てくれていると感じている。また、学校への総合満足度も受験させる保護者より20ポイント近く高い。



あなたは、お子様に、将来どのような人になってほしいと思いますか。

保護者 図5-2-2 子どもの将来に対する期待（全体・受験予定別）



注1 10項目のなかから3つまで選択して回答。

注2 3つ以上選択した回答については、欠損値扱いとしている。

注3 ()内はサンプル数。

2 子どもの将来に対する期待

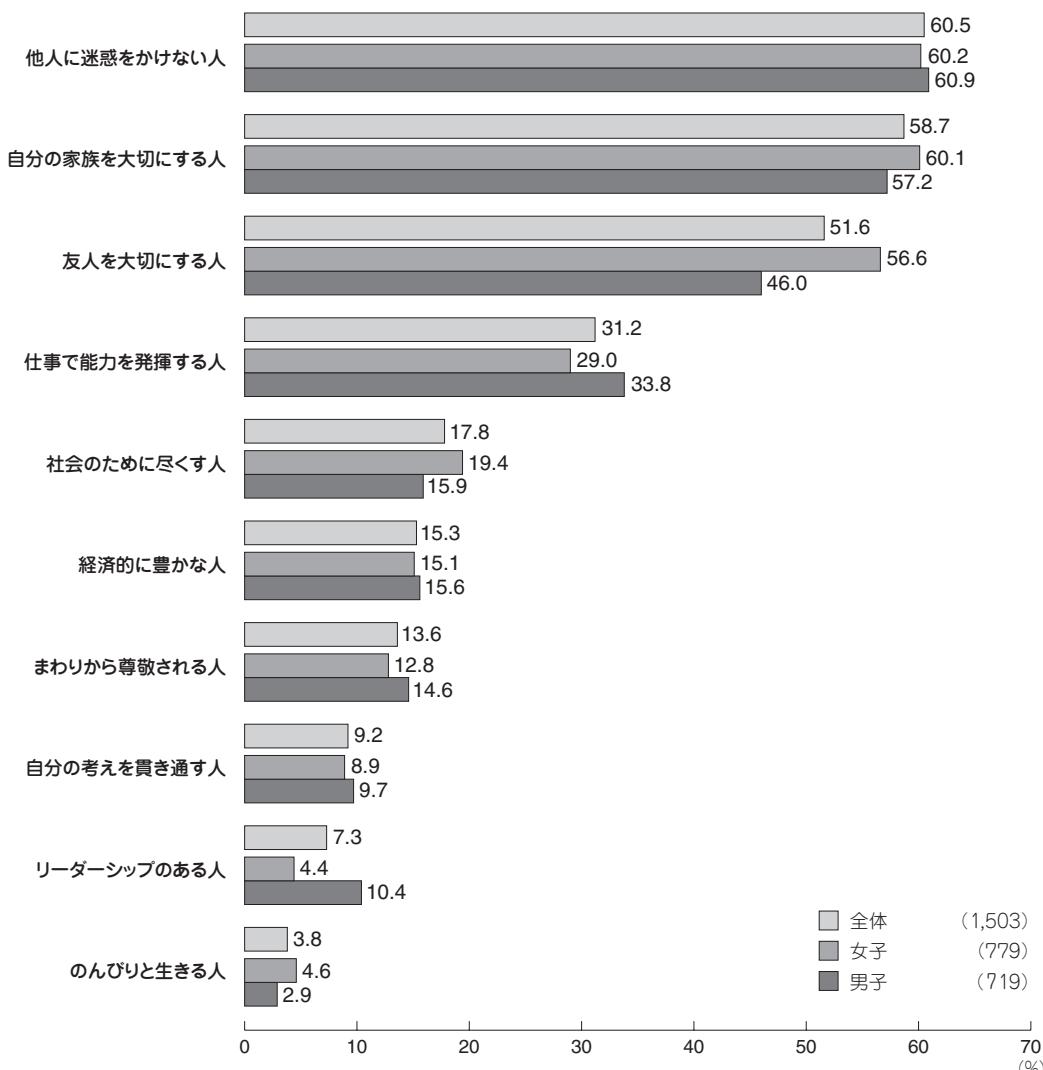
ここでは、保護者が子どもに、将来どのような人になってほしいかをたずねた結果をみていく。図5-2-2は、10項目のなかから3つまで選択して回答してもらった結果を全体値と受験予定別に示している。全体値をみると、上位3項目は「他人に迷惑をかけない人」(60.5%)、「自分の家族を大切にする人」(58.7%)、「友人を大切にする人」(51.6%)となっており、人間関係を重視する保護者の姿勢がうかがえる。

受験予定別では、受験させる保護者も受験さ

せない保護者も上位3項目の順番は全体値と変わらない。しかし、上位3項目の回答比率は受験させない保護者のほうが若干高い。それ以外の項目で、受験させる保護者の回答比率が受験させない保護者より高くなるのは、「仕事で能力を発揮する人」(「受験させる」41.4%>「受験させない」29.7%、11.7ポイント差、以下同)、「社会のために尽くす人」(22.2%>17.1%、5.1ポイント差)、「経済的に豊かな人」(22.7%>14.0%、8.7ポイント差)などである。

受験させない保護者の回答が上位3項目に集

保護者 図5-2-3 子どもの将来に対する期待（全体・子どもの性別）



注1 10項目のなかから3つまで選択して回答。

注2 3つ以上選択した回答については、欠損値扱いしている。

注3 ()内はサンプル数。

中しているのに対して、受験させる保護者の回答は多くの項目に分散していることがわかる。このように、受験させない保護者は人間関係を重視するが、受験させる保護者は人間関係を重視するほかに、仕事や社会での活躍なども期待している傾向がみられる。

さらに、図5-2-3で子どもの性別にみると、とくに女子の比率が男子より高いのは「友人を大切にする人」(女子56.6%>男子46.0%、以下同)であ

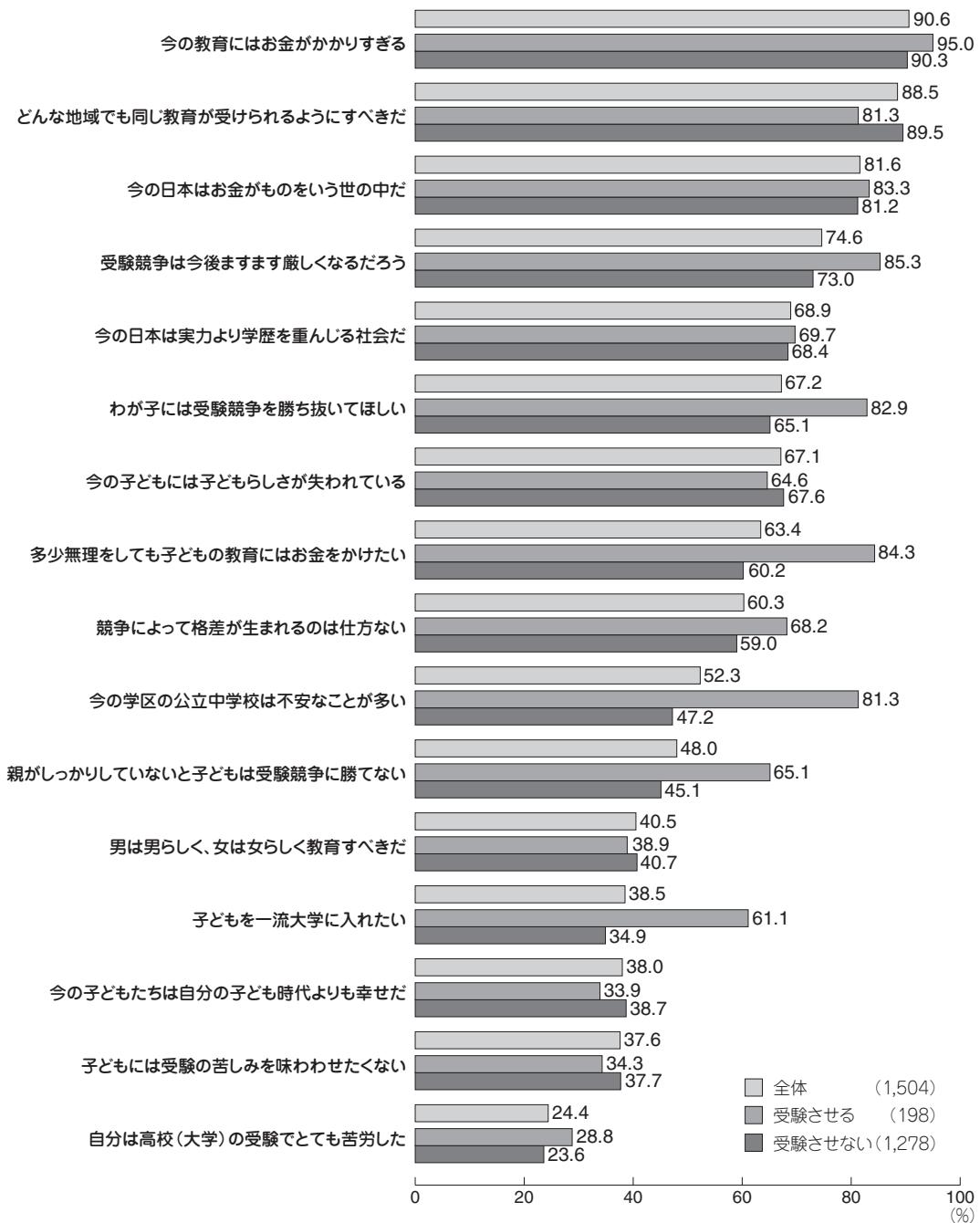
る。男子の比率が女子より高いのは「仕事で能力を発揮する人」(29.0%<33.8%)、「リーダーシップのある人」(4.4%<10.4%)である。保護者は、女子には人とのつながりを大切にする人になってほしいと思っているのに対して、男子にはそれだけではなく、仕事で活躍することやリーダーシップを発揮することも望んでいるようである。子どもの性別によって、期待することが異なっていることがわかる。



あなたは、教育に関する次のような意見や考え方について、どのように思いますか。

保護者

図5-2-4 教育に関する意見や考え方（全体・受験予定別）



注1 「とてもそう思う」+「まあそう思う」の%。

注2 ()内はサンプル数。

③ 教育に関する意見や考え方

本節の最後に、保護者の教育に関する意見や考え方をみてみたい。図5-2-4は全体値と受験予定別にみた結果である。

全体値をみると、「今の教育にはお金がかかりすぎる」と思っている保護者が約90%（「とてもそう思う」+「まあそう思う」の%、以下同）いる一方、「多少無理をしても子どもの教育にはお金をかけたい」と回答している保護者も60%を超えており、また、90%弱は「どんな地域でも同じ教育が受けられるようにすべきだ」と回答し、地域格差があつてはいけないと多くの保護者が考えている。しかし、「競争によって格差が生まれるのは仕方ない」との回答も約60%で、保護者の複雑な気持ちが表れているように思う。

つづいて、同じ図5-2-4の受験予定別のデータをみると、以下2つの特徴がみられる。第一に、受験させる保護者で公立中学校への不安が高い

こと。「今の学区の公立中学校は不安なことが多い」の回答比率は、全体値では52.3%である。しかし、受験させる保護者（81.3%）は受験させない保護者（47.2%）より高く、両者で34.1ポイントの差が開いている。公立中学校への不安が保護者の受験させる理由の一つであると考えられる。

第二に、受験させる保護者は競争意識が強いこと。競争意識に関する項目で、受験させない保護者より受験させる保護者のほうで回答比率が高いのは「受験競争は今後ますます厳しくなるだろう」（「受験させる」85.3%>「受験させない」73.0%、以下同）、「わが子には受験競争を勝ち抜いてほしい」（82.9%>65.1%）、「競争によって格差が生まれるのは仕方ない」（68.2%>59.0%）などである。受験させる保護者は競争意識が強く、また競争によって生じる格差も仕方ないと考えているようである。

保護者 表5-2-2 教育に関する意見や考え方（全体・人口規模別）

（%）

	全体 (1,504)	人口規模別					
		特別区・ 指定都市 (355)	15万人以上 (470)	5~15万人 (375)	5万人未満 (251)		
今の教育にはお金がかかりすぎる	90.6	91.8	92.6	89.6	86.8		
どんな地域でも同じ教育が受けられるようにすべきだ	88.5	86.5	89.3	87.8	89.6		
今の日本はお金がものをいう世の中だ	81.6	84.2	84.1	>	77.8	80.1	
受験競争は今後ますます厳しくなるだろう	74.6	76.9	78.1	>	70.4	69.7	
今の日本は実力より学歴を重んじる社会だ	68.9	65.6	<	72.6	70.1	>	64.9
わが子には受験競争を勝ち抜いてほしい	67.2	70.7	70.4	>	65.1	>	59.7
今の子どもには子どもらしさが失われている	67.1	68.5	70.3	>	64.5	62.5	
多少無理をしても子どもの教育にはお金をかけたい	63.4	65.6	63.2	62.2	60.6		
競争によって格差が生まれるのは仕方ない	60.3	63.7	60.8	59.8	56.2		
今の学区の公立中学校は不安なことが多い	52.3	60.6	>	54.9	>	46.2	44.7
親がしっかりしていないと子どもは受験競争に勝てない	48.0	54.9	>	46.6	46.9	43.1	
男は男らしく、女は女らしく教育すべきだ	40.5	43.1	38.5	39.2	41.0		
子どもを一流大学に入れたい	38.5	44.7	>	37.6	35.8	34.2	
今の子どもたちは自分の子ども時代よりも幸せだ	38.0	36.3	35.3	36.0	<<	48.6	
子どもには受験の苦しみを味わわせたくない	37.6	36.9	36.4	36.8	<	45.0	
自分は高校（大学）の受験でとても苦労した	24.4	28.8	>	23.6	23.7	22.3	

注1 「とてもそう思う」+「まあそう思う」の%。

注2 <<>は10ポイント以上、<>は5ポイント以上差があるもの。

注3 ()内はサンプル数。

次に、人口規模別にみた結果を表5-2-2に示している。16項目をみてみると、人口規模が大きいほど、比率が高くなる項目が多い。「特別区・指定都市」と「5万人未満」の比率を取り上げると、両者の差が大きい項目は、「今の学区の公立中学校は不安なことが多い」（「特別区・指定都市」60.6%>「5万人未満」44.7%、15.9ポイント差、以下同）、「親がしっかりしていないと子どもは受験競争に勝てない」（54.9%>43.1%、11.8ポイント差）、「わが子には受験競争を勝ち抜いてほしい」（70.7%>59.7%、11.0ポイント差）、「子どもを一流大学に入れたい」（44.7%>34.2%、10.5ポイント差）である。人口規模が大きいほど、保護者の公立中学校に対する不安が増し、競争意識も強くなる傾

向がみられる。これは前述した受験予定別にみた結果と傾向が似ている。逆に「5万人未満」が「特別区・指定都市」より回答比率が高い項目は、「今の子どもたちは自分の子ども時代よりも幸せだ」（36.3%<48.6%、12.3ポイント差）、「子どもには受験の苦しみを味わわせたくない」（36.9%<45.0%、8.1ポイント差）である。人口規模が小さいほど、現状に満足している保護者が多いとも読み取れる結果である。

※第5章は、Benesse教育研究開発センターの宮本幸子・邵勤鳳が執筆し、日本橋学館大学講師の荒川英央先生に監修していただきました。